シノドスへの歩み　みことばと共に
年間第三主日Ａ年

小西広志

2023 年 1 月 22 日

朗読箇所

第一朗読　イザヤ書　8 章 23b-9 章 3 節
第二朗読　コリントの信徒への手紙 1　 1 章 10-13、17 節
福音朗読　ヨハネによる福音書 4 章 12-23 節

はじめに

東京教区の皆さん、こんにちは。教区シノドス担当者の小西広志神父です。今日は 2023 年 1 月 22 日、年間第三主日です。主日のミサの三つの朗読をあじわってみましょう。今日は特に福音だけに注目します。

『マタイによる福音書』3 章と 4 章で洗礼者ヨハネの宣教、イエスさまの受洗、荒れ野での誘惑が描かれ、イエスさまの宣教活動の準備が整っていきます。そしてヨハネの逮捕の後、イエスさまは公に宣教活動を始めます。今日の朗読箇所はイエスさまの宣教活動の始まりのところです。

ガリラヤ

12 節、18 節、23 節にある「ガリラヤ」という地名に注目してください。ガリラヤ地方はかつてのイスラエル王国の北の端です。ですのでアッシリアなど大国が攻めてきたときに最初に犠牲となった場所でもあります。この地方にもともと住んでいた人たちが支配者によって連れて行かれたり、逆に新しい人々が移住したりを繰り返しましたので、ガリラヤ地方の住民の大半は純粋なユダヤ人ではなくなりました。そこで、ガリラヤ地方とそこに住む人々はユダ人にとって軽蔑の対象となったのです。13 節にあるカファルナウムはガリラヤ湖畔の町で、水陸交通の要衝です。ローマ兵たちも駐在しました。イエスの宣教拠点となります。

暗闇

16 節に「暗闇」という表現があります。この部分は『イザヤ書』8 章 23b 節-9 章 1 節からの引用の箇所です。「暗闇」という単語は、『マタイによる福音書』の中にもう一箇所登場します。27 章 45 節です。次のよう

にあります。「さて、昼の十二時に、全地は暗くなり、それが三時まで続いた」（27 章 45 節　新共同訳）。

今日の朗読では「異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見」（4 章 15-16 節）とありますので、「暗闇」は異邦人が生きている状態を指し、光が異邦人に射し込むことで彼らに救いが実現したことを示しています。このような文脈で「暗闇」を捉えますと、今読んだ 27 章 45 節での「暗闇」は、異邦人を含めたすべての人の救いの実現の前ぶれと理解できるでしょう。

悔い改めよ。天の国は近づいた

17 節にある「悔い改めよ。天の国は近づいた」を、ギリシア語から直訳すると「悔い改めよ。なぜなら天の国は近づいた」となります。これは、洗礼者ヨハネの宣教の時のことばでもありました（3 章 2 節参照）。悔い改めるはギリシア語でメタノエオーですが、「神のもとに立ち返る」という意味です。『マタイによる福音書』では「神の国」を「天の国」といいます。

二つの召命物語

18 － 20 節のシモンとアンデレの召命物語と 21 － 22 節のヤコブとヨハネの召命物語、この二つの召命物語はまったく同じ構成となっています。18 節から 20 節では、1. イエスさまは歩いておられた、2. イエスさまは二人の兄弟を御覧になった。3. イエスさまは声をかけた。「わたしについて来なさい」4. 二人は網を捨てて、5. イエスに従った。

21 節から 22 節では 1. イエスさまは進んでおられた。2. イエスさまは二人の兄弟を御覧になった。3. イエスさまは声をかけた。「彼らをお呼びになった」。4. 二人は舟と父親を残して、5. イエスに従った。どちらも召命物語も、歩いておられるイエスさまが「見て」、「呼ばれた」ことから始まっています。

まとめ

今日の第一朗読、そして福音朗読で引用された預言者イザヤが伝える神の言葉は、救いの言葉でもありました。その言葉がイエスさまによって実現したとするのが今日の福音の箇所です。そして、イエスさまは「悔い改めよ。天の国は近づいた」と短い言葉で救いを告げます。同じようにイエスさまは漁師たちを「御覧になって」、言葉をかけて、従わせるのです。イエスの宣教は眼差しと言葉によるのです。

それではまた来週。